様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　４ 月　９ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ０３１７９

研究課題名（和文）「長い７０年代」の東西欧州知識人交流から人権規範・実践のグローバル・ヒストリーへ

研究課題名（英文）From the Exchange of East-West European Intellectuals in the "Long 1970s" to a Global History of Human Rights Norms and Practices

研究代表者
松井　康浩（MATSUI, Yasuhiro）

九州大学・比較社会文化研究院・教授

研究者番号：７０２１９３７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、1960年代後半以降に誕生したソ連知識人（異論派）の言論活動と、それを支援した西側知識人・市民の越境的実践及び両者による共同プロジェクトの実態を描き出す越境史／グローバル・ヒストリーの試みであった。特に、5人の人物とその活動、そして彼らが行った共同事業に注目した。研究期間中に、アムステルダム、ロンドン、ニューヨーク、ワシントンに所在する各人物の個人アーカイヴや関係文書に取り組み、知られざる彼らの協働事業の様相を明らかにすることができた。
　この研究に基づく成果は英文書籍として刊行することを計画しており、すでにその原稿のドラフトを書き上げるに至った。序章と終章を除き、本論６章からなる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　この研究プロジェクトによる研究成果はすでにいくつかの学術論文として公刊しているが、今後、英文書籍として全体をまとめ、海外の出版者から刊行できれば、国際的な学術コミュニティに大きな貢献をなしたことになろう。
　特に、デタント期にあたる長い1970年代に、これまであまり知られていなかったソ連異論派と西側の市民・知識人の共同事業を通じて、人権が国際社会で無視できない価値として確立していったこと、とりわけ、その事業が、欧州安全保障協力会議（ＣＳＣＥ）の最終議定書をめぐる東西の交渉にインパクトを与えたことを明らかにしたのは、学術的にも、社会的にも意義ある業績であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study was an attempt at a transnational history/global history that describes the discursive activities of Soviet intellectuals (dissenters) who emerged after the late 1960s, the transnational practices of Western intellectuals and citizens who supported them, and the actual conditions of joint projects by both groups. Special attention was paid to the five individuals, their activities, and the joint projects they undertook. During the research period, the study worked with each individual's archives and related documents in Amsterdam, London, New York, and Washington, D.C., to uncover aspects of their collaborative projects unknown to the researcher.
The result of this research is to be published as a book in English, and a draft of the manuscript has already been written. The book consists of six chapters, besides the introduction and the last chapter.

研究分野：西洋史、越境史、欧州国際関係史

キーワード：Pavel Litvinov　Karel van het Reve　Stephen Spender　Peter Reddaway　Edward Kline　長い1970年代　異論派　デタント

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

1960 年代は、政治秩序や社会の変革を模索する様々な動きが世界的に見られた時代であった。 旧植民地諸国＝「第三世界」による欧州起源の国際社会秩序への挑戦、チェコスロヴァキアの「プラハの春」に象徴される社会主義体制改革の動き、ベトナム反戦運動や公民権運動、先進諸国を席巻した学生運動や労働運動等が良く知られている。そして「1968 年」は、いずれの動きにとっても、一つの重要な節目、画期の年となった。

申請者は、変革を模索する以上の動きの中でも、ソ連の異論派の登場と活動に注目した研究を近年、行ってきた。1965 年 9 月、アンドレイ・シニャフスキーとユーリー・ダニエルという二人の作家が、海外で出版した作品を理由に「反ソ宣伝扇動」の罪に問われて逮捕され、翌年、裁判で刑期を科された事件は、モスクワの知識人の間に抗議の動きを作り出し、ソ連異論派の誕生をみた。申請者の視点の特徴は、異論派のみならず、それを支援した西側の知識人や市民の動きにも着目したところである。すでに科研費の支援を受けて、なぜ西側の人々が、国境や体制を超えて、自国の政府に異議申し立てを行うソ連の知識人の支援活動に取り組んだのか、その道徳的な背景を探る研究を実施し、一定の成果を上げてきた。

２．研究の目的

今回新たに申請した研究プロジェクトは、1968 年～1980 年代前半を「長い 1970 年代」と捉え、国際アピール「世界の公衆へ」（1968 年 1 月）の発出で知られるソ連の異論派知識人の一人パーヴェル・リトヴィノフの要請に応じて、人権擁護活動に支援の手を差し伸べた二人の西側知識人の事業それ自体を考察するものであった。具体的には、オランダのライデン大学教員のカレル・ヴァン・ヘト・レーヴがアムステルダムに設立した「ゲルツェン財団」（1969 年-）と、イギリスの著名な詩人スティーヴン・スペンダーが設立した「作家・学者インターナショナル（WSI）」（1971 年-）及びその人権情報誌 *Index on Censorship*（1972 年-）の活動実態を「長い 70 年代」に焦点を合わせて検討することで、ソ連の異論派運動を起点とした東西欧州知識人の越境的交流が、人権規範・実践のグローバル・ヒストリーに結びつくその動態を実証的に解明することを目指すものであった。

３．研究の方法

本研究の方法の中心は、対象となる人物、リトヴィノフ、ヴァン・ヘト・レ―ヴ、スペンダーの個人文書や各事業に関わる文書を渉猟し、とりわけ、事業実態に迫りうる事業実績、会議議事録、会計帳簿、さらには関係者がやり取りした書簡などを分析することであった。ヴァン・ヘト・レーヴのゲルツェン財団については、アムステルダムの国際社会史研究所が財団のアーカイヴ文書を所蔵しており、そこで数次にわたる資料調査を行った。また、スペンダーについては、その機関誌 *Index on Censorship* が国内の図書館（特に京都大学）に所蔵されていたため、それの閲読・分析が柱となった。また、この２つの事業に、ロンドン大学のピーター・レッダウェイが深く関わっていたことが判明したため、レッダウェイの活動にも注目し、彼が発表した書籍や論文などにも注意を払った。さらに、西側支援者として新たに、ニューヨークでスーパーチェーンの社長業を営むエドワード・クラインが、国外移住を余儀なくされたソ連の異論派（リトヴィノフを含む）と共に支援事業であるフロニカ出版を設立し、異論派の人権サミズダート誌 *A Chronicle of Current Events* のロシア語印刷版に加え、ソ連の人権侵害情報や西側の支援動向や論評記事を掲載した *A Chronicle of Human Rights in the USSR* の英語版とロシア語版を刊行していたことが判明した。そのため、フロニカ出版の事業にも調査の手を広げることとなった。クラインが力を傾注したサハロフ支援に関する文書がハーヴァード大学の図書館に収蔵されている情報をつかみ、その現地調査をも実施した。

ただ、研究期間中に新型コロナウィルスによるパンデミックが発生したため、研究の進捗が大きく妨げられた。2020 年 3 月以降、海外出張のみならず国内出張も困難になり、いくつかの資料調査を中止せざるを得なかった。数度にわたる研究期間の延長を経て、ようやく、2023 年度に海外資料調査を実施することができ、予定していた資料の収集作業、そしてその資料に基づく分析と執筆活動を大きく前進させた。

４．研究成果

研究期間の延長を経て、当初の研究計画で対象としていたリトヴィノフ、ヴァン・ヘト・レーヴ、スペンダーの３人による共同事業に加え、レッダウェイとクラインという人物及びその支援事業にまで視野と分析を広げることができた。その結果、ソ連の異論派とソ連を支援した西側知識人市民の協働につき、先行する研究はもとより、予定していたレベルを超える研究成果を得られたと考える。すでに並行して行っている新たな科研事業の進捗とも併せて、研究書の原稿のドラフトの執筆を終えた。海外の出版社から英文書籍として 2024 年度中の刊行を目指している。予定しているタイトルは、*Supporting Soviet Human Rights Struggle: A Transborder Network between Moscow, Amsterdam, London, and New York* である。すでに海外の大学出版にプロポー

ザルの提出も済ませており、その結果をまって、完成作業に取り組む予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 松井康浩	４．巻 201
２．論文標題 ソ連研究の新たな地平―記憶・遺産・帝国	５．発行年 2021年
３．雑誌名 国際政治	６．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Yasuhiro Matsui	４．巻 29
２．論文標題 Forming a Transnational Moral Community between Soviet Dissidents and Ex-Communist Western Supporters: The Case of Pavel Litvinov, Karel van het Reve and Stephen Spender	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Contemporary European History	６．最初と最後の頁 77-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S096077731900016X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 松井康浩
２．発表標題 ソ連・西欧知識人の越境的連帯とその意義―起点としての1968年
３．学会等名 シンポジウム「1968年再考―グローバル関係学からのアプローチ」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 松井康浩
２．発表標題 転向コミュニストの夢：最後のユートピアとしての人権
３．学会等名 ロシア革命100周年シンポジウム「未完の革命：ユートピア／ディストピアへの欲望」
４．発表年 2017年

〔図書〕　計3件

1．著者名 長谷川貴彦編	4．発行年 2020年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 273
3．書名 エゴ・ドキュメントの歴史学（本書の中の第８章「エゴ・ドキュメントをめぐる後期ソ連の歴史実践」を松井が執筆[245-272頁]）	

1．著者名 松井康浩、中嶋毅編	4．発行年 2017年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 316
3．書名 ロシア革命とソ連の世紀　第2巻	

1．著者名 荒川正晴ほか編	4．発行年 2023年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 312
3．書名 岩波講座 世界歴史23 冷戦と脱植民地化Ⅱ（本書の中の章「ソ連の異論派と西側市民の協働」を松井が執筆[151-170頁]	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関